

スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編 vol.01

どうも、大沼です。

この講座は、いくつかあるスケール練習(習得)法の内、「1本の弦あたり、3音ずつ弾いていく」

『スリー(3)ノート・パー・ストリング・スケール』

について、練習法やスケールポジションを覚えるコツを学び、この機会に完璧にマスターしてしまおう、と言う趣旨のものです。

過去に配布した教材でも、ある程度の解説はしていますが、今回あらためて、細部まで見ていきたいと思います。

ちなみに、出てくる音楽用語については、「世間一般で正しい(定義)とされているもの」か、「こう解釈(もしくは表現)するとわかりやすい、と個人的に思うもの」を使用しています。

僕個人が「この方がわかりやすいだろう」と思う表現の場合、世間一般での定義と少し違う場合もあるかもしれませんが、その辺りは、都度、用語に対しての解説をしますのでご了承ください。

では、始めていきましょう。

■スケールの練習法いろいろ

まず、直接の練習に入る前に、今回と次回(vol.01~02)の2回にわけて、各スケール練習法(弾き方)の特徴や、良い部分、悪い部分を整理してみたいと思います。

一般的に教本などで見かけるのは、

1、縦移動(低音弦⇔高音弦)、ブロック(or ボックス)・ポジション

2、縦移動(低音弦⇄高音弦)、3ノート・パー・ストリング・スケール

3、横移動、(ローフレット⇄ハイフレット)1本弦上でのスケーリング
(※ここから派生させて2~3本弦上の範囲で行うことなども可)

の3種類でしょうか。

後はここに、僕が個人的に重要だと思っている、

4、1オクターブの範囲での把握

を入れて、この講座では以上の4種類を基本的な練習法としたいと思います。

理想を言えば、全ての練習をした方が良いでしょうし、経験を積むにつれて、全てを関連させて身に付けていく様な感じになるのですが、まずは1種類ずつ、ということで、今回は3ノート・パー・ストリング(※以下3npsと略します)スケールをメインにマスターしていく講座となります。

ちなみに、(常用)スケールの代表的なポジション図と譜例は、過去に配布した教材では、

・メジャースケール(チャーチモード)のブロック(ボックス)・ポジション
→【ギターと音楽の教科書】vol.21~

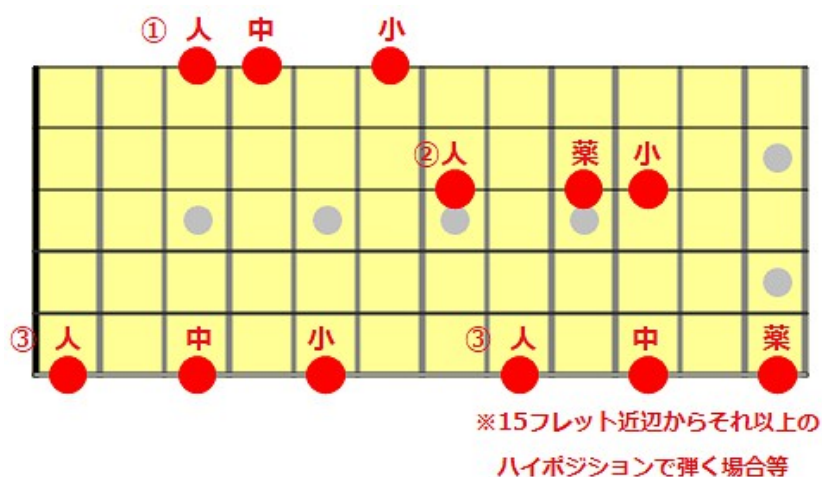
・メジャースケール(チャーチモード)ブロック(ボックス)・ポジションと3npsスケール
→【1日10分トレーニング】のvol.39~

辺りでも解説していますので、そちらも参考にしてください。

■ギターでスケール(音階)を弾く時に出てくる、基本的な指使いのパターンについて

実は、ギター(指板の)構造上、ポピュラーミュージックで使われる、チャーチモードなどの一般的なスケールを弾く場合、出てくる指使いにはパターンがあります。

まず、最も多用するであろうものが以下の3種です。

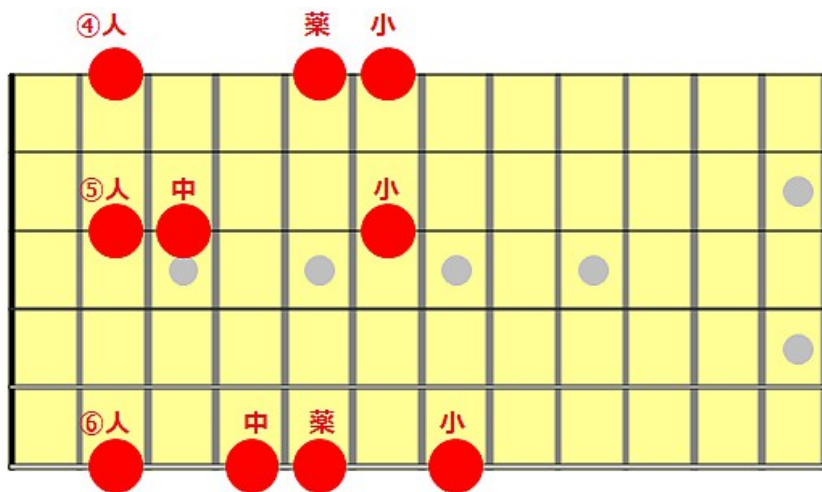


※3つの形を一つの図にまとめたものなので、使っている弦やフレットは関係ありません

チャーチモードの7種は、3nps スケールで弾く場合、この3種の組み合わせだけで弾けますね。

③の形は、ハイポジションで弾く場合、右の様な指使いになることもあるでしょう。(※逆に左の指使いのままでも可)

次に、何かしらの意図が無ければ、あまり使うことは無いと思いますが、指のストレッチを含む、もう3種(2種+α)の形があります。(※前の図の③も指のストレッチをしています)



④と⑤は、ハーモニックマイナースケールを3nps スケールの弾き方で弾く場合に出てきます。

(※ハーモニックマイナーについては、別途配布している【教科書】の vol.50 前後から解説しています)

とは言え、少し特殊な指の開き方になりますので、あまり使うことは無いかもしれません。
(※テクニカル系のリードプレイなどでは普通に出てくることもあります)

⑥に関しては、そもそも1本弦上で3音ずつですらないので、このまま弾くものでもありません。
(※何かしらの狙いがあれば使うこともあるかもしれませんが)

これについては次の項目で解説しますね。

ということで、左手全体を左右に大きく移動(ポジションチェンジ)させない場合、3nps スケールの弾き方としては、これら6種(というか実質5種)の指使いが出てくることになります。
(※西洋音楽以外の、民族音楽的なスケールを弾く場合を除く)

■スケールポジションにおける「指のストレッチ」について

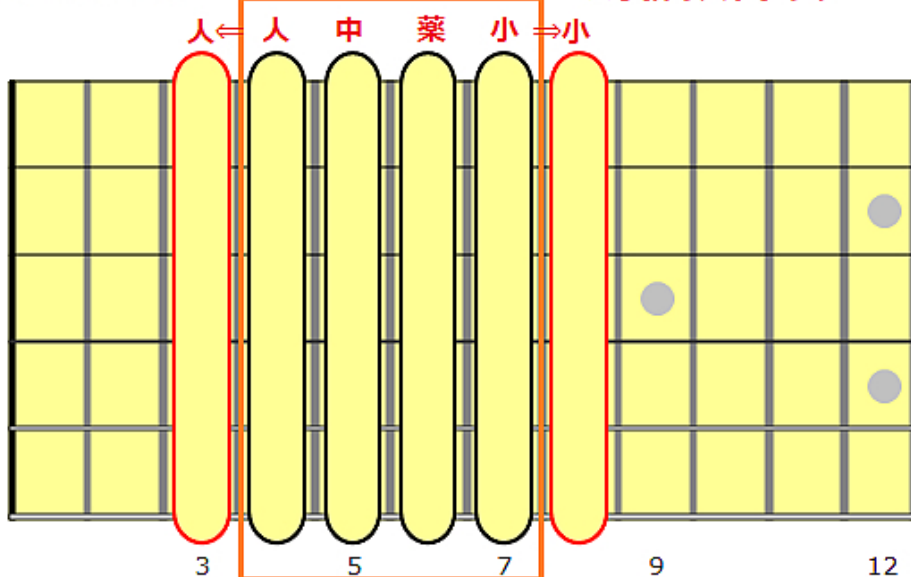
次に、スケールを弾くときの「指のストレッチ」についての解釈なのですが、色々調べてみると、

『1フレット1フィンガー(1つのフレットに1本の指を対応させる)の形(これが元々の「ポジション」の意味)から、人差し指か小指を1フレット分開く事』

を指しているようです。

(※バークリー音大関係の人が書いた本などに載っていたりするのですが、本当に、世界において、僕のこの解釈が100%正しいかどうかはわかりません)

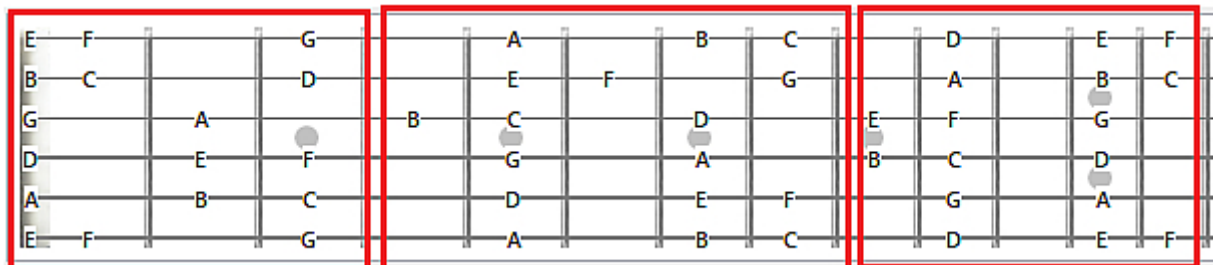
※人差し指のストレッチ 1フレット1フィンガー ※小指のストレッチ



この解釈によって、前ページまでの③～⑥の指使いが説明できるわけですね。

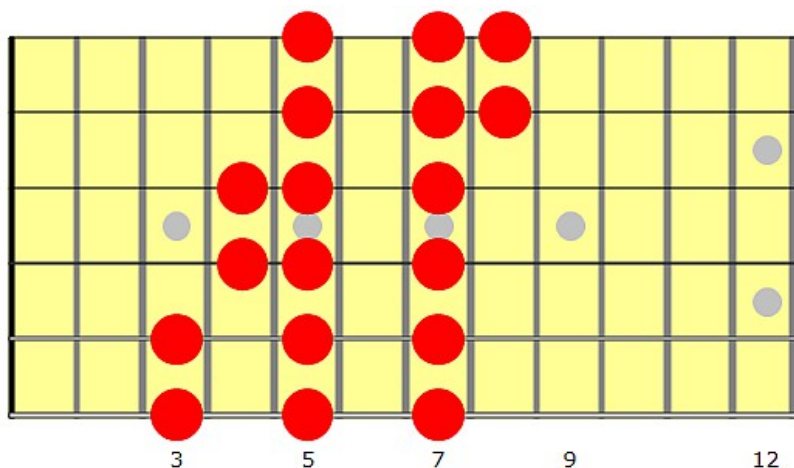
以下の様なブロックポジションでは、指のストレッチを含むことはありませんが、(※場所によっては含む弾き方もできます)

※ブロック(ボックス)ポジションの一例



3nps スケールで弾く場合、どこかに必ずストレッチをする部分が出てきます。

※6弦トニック、メジャースケール(アイオニアンスケール)3nps、(tonic=G)



後は、「ストレッチ」の単語の通り、教本などの解説によっては「(プレイの上で)通常よりも指を開くこと(そのもの)」、を指している場合もありますが、この辺りは文脈で判断することになりますね。

と、ここまで細かく解説してきましたが、極論、自分が弾いているものの構造をちゃんと理解していれば、この辺りの言葉の定義については枝葉の要素かな、とも感じます。

ただし、こういう解釈をしていた方が、本当に理解しやすい、と感じたならば、覚えておくに越したことはないでしょう。

それでは、vol.01 ということで、スケール構造の大元の解説のみになりましたが、今回は以上になります。

次回、vol.02 に続きます。

ありがとうございました。

大沼